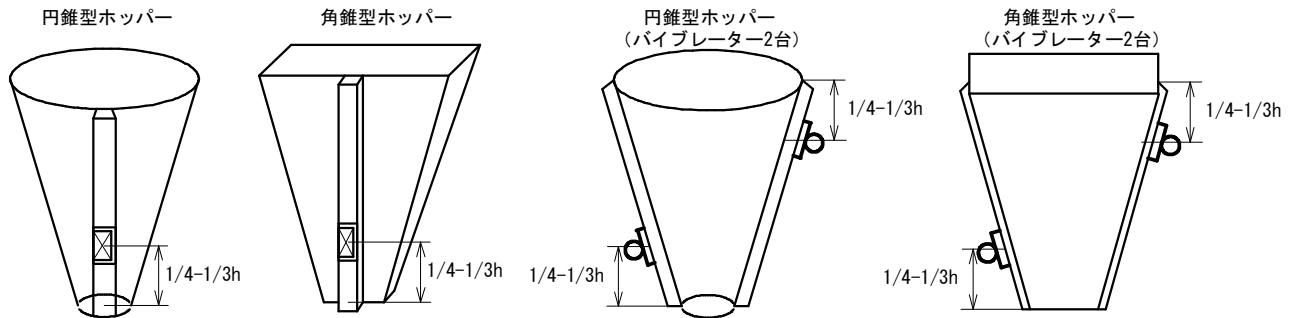


バイブレーターの取付方法

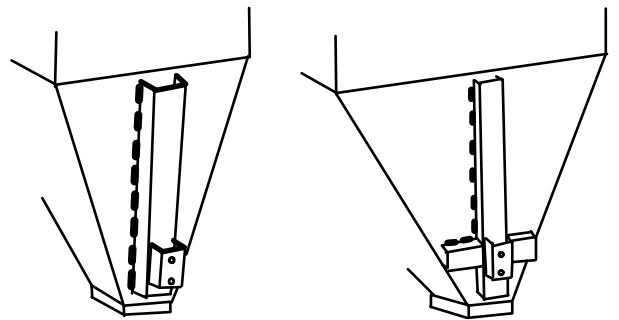
バイブレーター機種選定後、取付(位置、方向、固定)・配管・運転方法などは一般的エア機器・振動機器に進みますが、エアバイブレーターはエアシリンダーと違い、概して高振動数で動きますから、使用にあたっては特に下記ご留意下さい。

●ホッパーのテーパ部への取付位置は、1台の場合はテーパ部全高 h の下から $1/4-1/3h$ 、2台の場合は下1台の180度反対側上から $1/4-1/3h$ の位置への取付が効果的です。回転タイプの取り付け方向はキャップが左右になる方向にしてください。内部ボール、ローラーの回転方向は左右どちらでも効果は同じです。ボルト固定には必ずスプリングワッシャーを併用してください。
両テーパのある角錐ホッパーは円錐ホッパーに比べて振動の伝達効率が落ちるのが一般的です。テーパ下部に1台取り付けるよりは、下図のように2台取り付けたほうが効果は大きくなります。



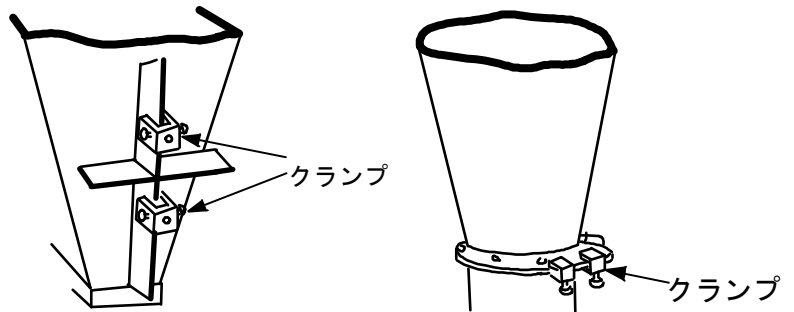
ホッパー用取付架台と溶接方法

一般的によく見られる架台として板圧の厚いプレートを直にホッパーに連続溶接した場合が非常に多いのですが、これは振動効果(面積)及びクラック発生 の点でよい取り付け方法ではありません。
チャンネル鋼をホッパーに右図のように抱かせる方法が振動効果(面積)を大きくするベスト条件です。しかもクラック防止のために上下両端の溶接は行わず断続溶接を施してください。
又、比較的大きなホッパーに対してはチャンネル鋼を十文字に抱かせると効果は大きくなります。



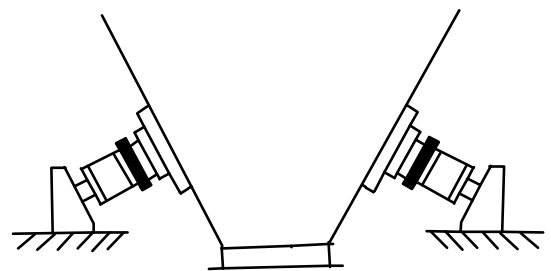
溶接不可の場合

既設のリブを利用し、クランプを利用することにより取付が出来ます。



小さなホッパー

比較的小さなホッパー(1000 μ 未満)において衝撃力を与えたい場合、ピストン式NTKシリーズのピストン又はケーシングの近くに硬質ゴムのパッドを向け衝撃を与えることが出来ます。

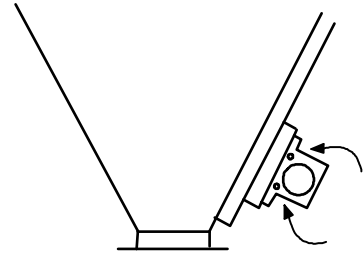


株式会社タムラインターメーション

542-0086 大阪市中央区西心斎橋1-5-12
TEL:06-6251-4927 FAX:06-6252-2187
<http://www.tamrax.com/>
E-mail: info@tamrax.com

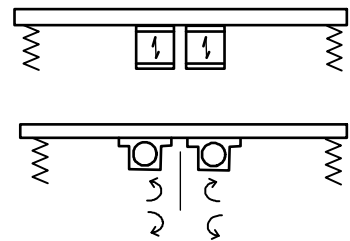
回転式バイブレーターを取り付ける場合

回転式バイブレーターを取り付ける場合回転方向はいずれの方向でも効果は変わりません。



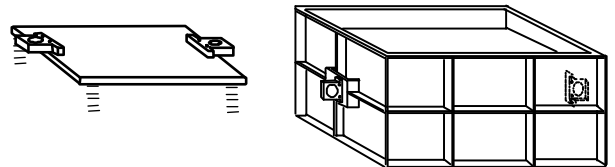
2台取り付ける場合

振動板などに2台取り付ける場合は、板中心にできる限りお互いに近づけて取り付けること。但し、複数個つけるのは望ましくなく出来るだけ1台とすること。又、回転式の場合お互いに逆回転に取り付けること。この場合の振動力は1台分の約倍となる（但し、エア一量は2倍供給する必要がある）



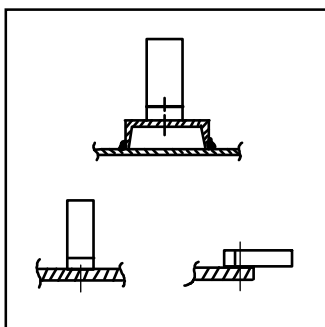
2辺が長い場合

長方形のように2辺が長い場合、1台取り付けるよりも2台取り付けると各部のバランスのよい振動が与えられる。（但し、板は剛性が充分あることが必要）

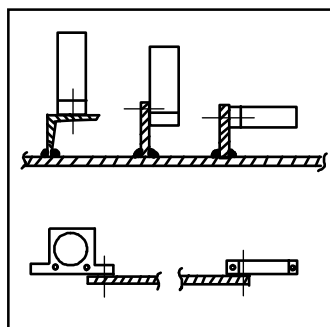


各バイブレーター取付架台

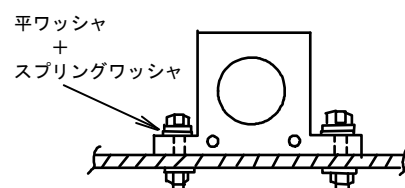
良い例



悪い例

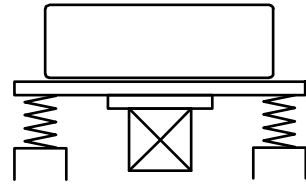


※ボルトにてバイブレーターを固定するとき、平ワッシャーだけでなくスプリングワッシャーも必ず用いてください。



小さな振動力が必要な場合

出来る限り小さな振動力(よりコンパクトなバイブレーター、安価)にするためには被振動側の振動させる部分を、コイルスプリングや防振ゴムにて他の部分と縁を切ることがポイントです。



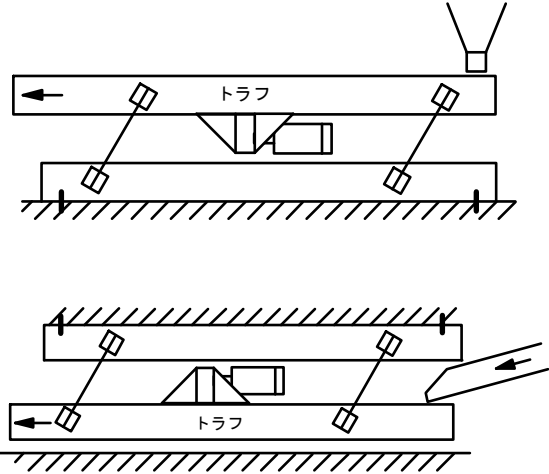
直進フィーダー (コイルスプリング方式)

直進フィーダー(コイルスプリング方式)に使用するバイブレータはFAL, FPLF, VTLタイプを用いてください。又取付角度は 15° から 20° が適当です。ワークの比重が大きいほど角度を大きくすればスムーズに搬送されます。



直進フィーダー (板バネ方式)

Findevaレゾナンスフィーダー(板バネ式)に使用するバイブレータはFAL, FPLF, VTLタイプを用いてください。又、この場合トラフに対し平行に取り付けてください。



シュートに対する取付角度

シュートに対する取付角度は、下図を原則としてください。

